

# 研究授業 6年 サイエンスコミュニケーション科

## 「自然災害に立ち向かう

### 清水窪子どもプロジェクト」

令和4年  
11月30日(水) 5校時  
6年2組  
西澤 純子教諭  
TT 坂本 大征 主任教諭



どのような内容や工夫（手立て）が、聞き手の自然災害への意識を  
より高められるのだろうか。

9／13時間

1週間分の水や  
非常食ってどの  
くらいかな？

小さい地震で  
も火災はおき  
るのかな？

仕組みをより詳しく、火  
災の広がりも触れた方  
がいいと思う。

津波の動画で50cmの水深  
でも転倒してしまうこと  
に危機感が高まった。

モデル実験を見ると、仕組  
みが分かりやすく、災害へ  
の意識が上がったので、自  
分の班でも行いたいと思  
いました。

ハリケーン対策は  
台風対策と同じで  
いいのかな？

避難所では  
一人当たり  
どのくらい  
の面積があ  
るのかな？

児童相互の対話

学級全体での対話

農作物への被  
害は自分の班  
でも同じ内容  
だった。

ライフラインの遮断はどの  
災害でも起こりうるとい  
うことが分かったので、それ  
に対する備えのデータを新  
たに組み込みたいと思  
いました。

被害を見た驚きでどの  
ような行動をとっし  
まうのかを具体的に知  
りたいと思った。

災害による、交通や暮  
らしへの影響など、も  
っと身近に捉えられる  
手立てにするべきでは  
ないだろうか。

スライドの指導は、單  
元終了までにさらに  
指導の必要がある。

#### 研究協議会

講師：元昭和女子大学教授  
小川 哲男先生

授業形態を1グル  
ープ対1グループにし  
た方が、より多くの  
意見が出たのではな  
いだろうか。

子どもたちは、発表グループの良  
い点や改善点を指摘し、さらに自  
分たちの発表内容との関連をも  
考えていて、最高でした。先生側  
は、具体的な手立てが明確でよかつ  
たです。これからは、単元ユニ  
ットに基づいて、教科学習とのつな  
がりを大切にして、既習との結  
び付きができるように支援して  
いきましょう。